



仔犬

# 大型犬や超大型犬の仔犬の食餌



成長期の仔犬は、成犬に比べて多くのエネルギーを必要とします。生後4ヵ月までの仔犬の体重1kgあたりエネルギー必要量は、同じ犬種の成犬のおよそ2倍です。仔犬が成長するにつれ、エネルギー必要量は減少し始めます。

大型犬や超大型犬（犬が理想的なボディコンディションスコアであると仮定した場合に期待される成犬時の体重が45kg [100ポンド] 超）では、成犬時の体重に到達するのかなり時間がかかります（最大で生後24ヵ月）。そのため、比較的ゆっくりと安定した成長速度になるように食餌を与えることが目的となります。成長速度が速すぎると、発達中の骨や関節にストレスがかかり、骨格形成異常につながる可能性があります。

カロリー必要量は、犬によって大きなばらつきがあります。正常な成長とやせ型の健康体型を維持するには、ペットへの給餌を個別に行う必要があります。ぽっちゃり体型の体重の重い仔犬は健康な仔犬とは言えません。仔犬の体型（Purinaのボディコンディションシステムを使用）と体重は、自宅だけでなく、獣医による定期診察時にも継続的にチェックする必要があります。

## キーメッセージ

### 何を与えるべきか？

- 仔犬には、骨格が完全に成熟するまで、完全にバランスのとれた成長期用の食餌を与える必要があります。大型犬や超大型犬が成犬の体重に到達するには、最大24ヵ月かかります。維持期用の食餌は仔犬には推奨されませんが、「全ライフステージ対応」とラベル記載された食餌は与えることができます。
- 完全にバランスのとれた食餌には、重要なミネラルを含むすべての栄養素が適正な量とバランスで含まれているため、補助食は必要ありません。
- カルシウムなどの特定の栄養素の過剰摂取は、骨格の形成異常を招く可能性があるため、成長期の仔犬にとって有害になることがあります。

(次のページに続く)

## キーマッセージ (続き)

### 何を与えるべきか? (続き)

- ウェットフードか、ドライフードかは、飼い主の好みによります。
  - ドライフードは、ウェットフードに比べてカロリー密度が高く、必要な給餌量が少なく済みます。そのため、大型犬や超大型犬に食餌を与える際に重要な判断材料となる場合があります。
  - ドライフードには歯科的な利点があり、研磨作用があるため、歯垢健康除去に役立ちます。
- 新鮮な水を用意して、仔犬が自由に飲めるようにしましょう。

### いつ与えるか?

- 大型犬や超大型犬の仔犬の場合は、給餌量の管理が推奨されます。給餌量の管理には、次のような利点があります。
  - 急速な成長を防ぎ、それに伴う骨格筋疾患のリスクの予防を助ける
  - 仔犬は食後すぐに排便したくなる傾向があるため、ハウストレーニングに役立つ
- 仔犬が6ヵ月になるまでは、1日に最高4回に分けて給餌するのが理想です。
- 6ヵ月を過ぎたら、1日2回の給餌で十分です。

### どのように給餌するか?

- ペットフードのパッケージに記載されている給餌量の目安を参照します。
- 標準的な250 ml (8オンス) のカップを使用するか、キッチン計量器 (クッキングスケール) でフードの重さをはかります。
- 覚えておくべきこと: 1日あたりのカロリー摂取量 = 1日に与えるフード + おやつ + 人のおこぼれ + 薬を服用するために使用するフード + トレーニングのためのおやつなどです。
- 成長期の仔犬には、気が散るものや争いのない静かな環境で、個別に (それぞれの犬用の給餌器にフードを入れて) 給餌する必要があります。
- 仔犬が食べ終わるまでおよそ30分間待ち、食べ残しがあれば取り除きます。

### その他のリソース

Case, L. P., Daristotle, L., Hayek, M. G., & Raasch, M. F. (2011). *Canine and feline nutrition* (3rd ed.). Mosby. doi: 10.1016/B978-0-323-06619-8.10025-8

Linder, D. E. (2017). Diets for each life stage. [Cliniciansbrief.com](http://Cliniciansbrief.com)

Eisner, E. R. (2003, July 13). Professional and home dental care of the adult dog and cat. In *Recent advances in dental health management* [Symposium]. *Proceedings of the 8th World Veterinary Dental Congress*. Kyoto, Japan, 8–15.

Lawler, D. F. (2008). Neonatal and pediatric care of the puppy and kitten. *Theriogenology*, 70, 384-392.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。